

瀋陽駐在員事務所

中国から見た「Brexit」

6月24日以降、Brexit(イギリスのEU離脱)は中国内でも大きく報道されました。

EU離脱後の中国への影響については専門家の意見も様々ですが、日本のような悲観的論調よりも「限定的」という見方や、イギリスとEUは自身の弱体化を避ける観点から、中国との協力関係をより重視するようになり、中英、中欧の協力にとって新たなチャンスが生まれる可能性もあるという考え方もあります。

中国にとってイギリスとの貿易は中国貿易総額の2%に過ぎず、中国対外経済の主要な部分とは言えません。しかし、イギリスのEU離脱はEU全体(中国最大の輸出市場)および世界市場にマイナス影響を与えることで、間接的に影響が生じる可能性を懸念する声も一部には出ています。

また、中国自身の対外投資にも影響すると考えられています。昨年12月習近平首席のイギリス訪問のように、近年イギリスは中国からの投資を誘致するなど緊密化が進み、対EU諸国中2番目に多い中国からの投資先国になりました(N0.1はルクセンブルク=タックスヘイブンの一つとする見解もある)。金融関連を除く中国企業からイギリスへの直接投資は、既に130億ドルを超えているそうです。これは中国企業がイギリス進出を進める際に、イギリス市場自体のみならず、イギリスをEUへの入口と見ていたことも大きく影響しています。こうした企業にとっては「Brexit」後はイギリスのEUへの入口としての役割が必然的に弱まり、中国企業のイギリスに対する見方がどのように変わるか注目されます。

張 璐

2014年中国の「対外直接投資」		2014年日本の「対外直接投資」	
	実行額(億円)		実行額(億円)
1 香港	85,430	米国	44,912
2 米国	8,157	英国	9,029
3 ルクセンブルク	5,519	シンガポール	8,121
4 英領バージン諸島	5,503	中国	7,194
5 ケイマン諸島	5,083	タイ	5,505
6 オーストラリア	4,881	インドネシア	4,705
7 シンガポール	3,392	オーストラリア	4,454
8 米国	1,807	ブラジル	3,539
9 ドイツ	1,735	オランダ	3,334
10 インドネシア	1,533	韓国	3,228
2014年度中国対外直接投資統計公報		JETRO HPより	

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【寒い土地ほど暖かい!? ～サハリン企業が札幌に～】

“東京より北海道の方が寒い、家の中は東京より北海道の方が暖かい”というのは良く知られた話です。どうしてでしょうか？それは家が寒冷地仕様だからです。また“北海道の優れた寒冷地技術”はロシアビジネスを考える上で重要なキーワードです。しかしながら、先入観は怖いもので、私もロシアで暮らす前は大きな誤解をしていました。実は、“家の中は北海道よりサハリンの方が暖かい”のです。集中暖房のおかげと思っていたのですが、どうやら窓サッシに秘密があるようです。

日本で報道もされましたが、7月19日、サハリンの窓サッシ企業「KARVI」(カールヴィ)が、札幌大通にショールームをオープンしました。社名は、社長の名前“カラグラコフ・ヴラジーミル・イワノビッチ”の頭文字に由来します。彼から私への提案を紹介します。“あなたの窓サッシを無償で交換します。その代わりに、交換前後の変化(室温、暖房費等)を周囲の方々に紹介してください、希望者にあなたの窓サッシを見学させてあげてください。まずはあなたの家にテスト設置して日本の方に良さを実感していただきたいのです。”素晴らしい提案ですが、私は賃貸の身であり、設置することはできませんが、どなたかロシア製窓サッシ第1号に名乗りを上げる方はいらっしゃいませんか？



達田 暢

ウラジオストク駐在員事務所

活カニフェスティバルについて

ウラジオストクでは、7月3日から約一週間、国際活カニフェスティバルが行われました。このイベントの正式名称は「カニ捕獲祭」であり、今まで金銭的な理由で手に入れられなかったカニを楽しめる機会として、ウラジオストクの市民や各所から訪れる方たちの中で話題を集めてきました。ウラジオストクは三方が海に面しており、魚介類やタラバガニをはじめとする海産物に恵まれています。特に、ウニとナマコは郊外の海水浴場でも簡単に採れるほど多く、ウラジオストクの南方にあるポポフ島にはホタテの養殖施設もあります。しかし、いずれも小売価格が非常に高く、大半の市民はなかなか買えないのが現状です。

そこで、ウラジオストクで売上高1位を誇るアジア諸国料理レストラン「ズーマ」や沿海地方産の食材にこだわる「ポート・カフェ」等の市内レストランが手を組み、地元漁師の協力を得て、カニの仕入れルートを極東地域全体に拡大することで、一般市民や外国人観光客向けに美味しいカニ料理が安く提供されています。

このフェスティバルは海外からの旅行者を呼び込むために、中国語・韓国語・日本語のメニューが用意されています。来年も開催される予定ですので、是非極東地方の誇る美味しいカニ料理を食べにお越しください。



イワン・モズゴヴォイ

北陸銀行バンコク駐在員事務所

「北海道レストランフェア初開催！」

7月よりバンコクに赴任しました吉田と申します。7月1日～10日までの10日間ではくはくフィナンシャルグループ（北海道銀行、北陸銀行）にて、北海道の食材を活用した料理をタイ人へPRするレストランフェア「アローイ北海道」を開催いたしました（「アローイ」とはタイ語で「おいしい」という意味です）。

牛肉、毛ガニ、アスパラガス、ラクレットチーズ、カタラーナといったタイでは目新しい食材をバンコク都内にある北海道関連の飲食店6店舗に空輸し、各飲食店で考案したオリジナルメニューをタイ人客に提供する新しい取組です。

実際のタイ人の反応として「アスパラの太さにびっくり。柔らかくてアスパラがこんなに美味しいとは！」（タイのアスパラは細くて硬く、炒め物に使う程度です）等、各食材とも味の評価は高く、改めて北海道食材のレベルの高さを認識しました。

今後は、より多くのタイ人に食べてもらう、注文してもらうために「見せ方」（アピールの仕方、説明、ストーリー等）が非常に重要だと感じております。

今回初めて開催したレストランフェア「アローイ北海道」は今後も継続して行います。自慢の食材、食品をタイに輸出してみたい方は是非とも国際部にご相談ください！



タイ語で作成した
レストランフェアのポスター

吉田 雄司

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

中国人の新たな副業スタイル

インターネットやスマートフォン、モバイル決済の普及と発展に伴い、「すきま時間」を利用して副収入を得ることが、中国人の新たな生活スタイルになっています。2015年に中国最大手の人材派遣会社が発表した調査報告によると、副業をしていると答えた人は約4割を占めており、最も多いのは「タクシー運転（白タク）」、「海外での代理購入」などです。乗客と運転手をマッチングさせるアプリ、「滴滴打車」は中国全土で広く普及しており（一部地域では使用が禁止）、価格は一般のタクシーと大差なく、厳しい管理制度により運転手の態度が丁寧であるなど、日常のインフラとして既に定着しつつあります。

最近注目を浴びているのが、料理人がすきま時間を利用して作った料理をアプリ経由で販売するネットビジネス、「回家吃飯」です。家庭の味を届けることをポリシーに運営されており、設立1年で北京における1日の利用者が5万人を突破しています。サービスの提供者は主に定年者か主婦で、1日の取引数20回で月間約5,000元（8万円）の収入を得ることができます。

中国では日進月歩で新たなネットビジネスが生まれ続けています。昨今、日本でもシェアリングエコノミー（ ）が注目され始めていますが、日本の先を行く中国に学ぶ日もそう遠くないのかもしれないかもしれません。

（ ）個人間のカーシェアリング、シェアハウス等、SNSの発達により可能となったモノ、カネ、サービスの共有のこと

小笠原 宅麻



「回家吃饭」の画面。

北海道 ASEAN 事務所 (シンガポール)

シンガポールの水事情

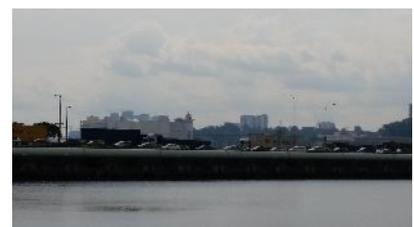
シンガポールの南側の都市「ウッドランズ」とマレーシアの北側の都市「ジョホールバル」はわずか1kmの距離にあり、【コーズウェイ】という橋で結ばれています。今回はこの橋に設置されている水道パイプラインについてご紹介します。

シンガポールは面積がわずか716km²（東京23区とほぼ同じ）であり、日本以上に資源に乏しい状況にあります。特に国内の高低差がほとんどなく、水資源の確保には苦勞しており、その多くをマレーシアから輸入しています。ただしこの輸入の契約は、2061年までの契約（1961年から99年間の契約）となっていることから、シンガポールでは水問題の解決を国の最優先課題に掲げています。

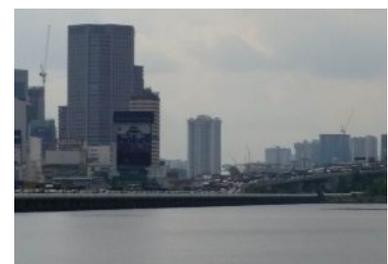
PUB（シンガポール公益事業庁）によると、現在約60%を占める輸入水の割合を2030年までに半減させ、代わりに「ニューウォーター」と呼ばれる再生水（下水処理水をろ過したもの）の割合を現在の30%から、50%にまで増加させるとしています。また、海水淡水化に力を入れており、同じく2030年までに現在の10%から、20%に拡大させる予定です。この海水淡水化には世界各国の企業も注目し、今年開催されたSIWW（シンガポール国際水週間・2年に1度開催）では淡水化プラントの成約など152億\$（約1兆2千億円）の成約があったそうです。

将来的にこの技術を輸出したいシンガポール。北海道からも技術を提供できる企業があるのではないのでしょうか。

津川 剛史



中央の白い部分がパイプライン



コーズウェイの全景（奥がマレーシア）